

心房中隔欠損

心房中隔欠損とは？

左右の心房を隔てる心房中隔が欠損している病気です。左心房から右心房へ血液のシャントが起こり、肺血流量が増加します。女性に多く(2:1)、全先天性心疾患の約7-13%を占めます。

どのような症状が起きますか

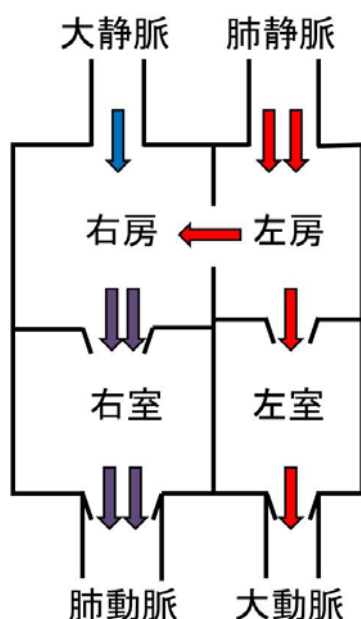
小児期には自覚症状がなく、通常は健診での心雑音や心電図異常で発見されます。シャント量が多い例では、成人期以降に息切れ、動悸、易疲労性が出現します。乳児でもまれに体重増加不良、易感染性、肺高血圧を認める場合もあります。

どのように診断しますか

胸部レントゲン写真と心電図検査を行い、心エコー検査で確定診断します。学校心臓検診の心電図異常が診断の契機になることも少なくありません。欠損孔が大きく治療が必要と考えられる例では、心臓カテーテル検査を行います。

どのように治療しますか

肺血流量が多い例では、外科手術かカテーテル治療により欠損孔を閉鎖します。カテーテル治療は、15kg以上の体格で欠損孔の大きさや位置が適している場合に受けることができます。治療を受ける年齢は3～5歳頃が目安ですが、乳児期に体重増加不良、易感染性、肺高血圧を認める場合は、早期に治療を行うことがあります。



中村 隆広：心房中隔欠損，
三浦 大 編：はじめて学ぶ小児循環器，
P 47，診断と治療社，2015. より改変して引用.